

クレプトクラシー（横領政治）または、それに近い政治体制で極端に腐敗している国は、ありとあらゆる手段を使って、市民の資産や土地を横領または搾取し、支配階級の私欲を肥やす政治体制である。しかし、アラブ諸国は例外なく、土地や天然資源は王族に帰属する概念が存在した中世のヨーロッパの封建制の伝統を多少なりとも受け継いでいる。アラブ諸国のクレプトクラシー的腐敗政治を最も具体的に伝えているのは、ウキリークスが公表した秘密外電文書の情報である。

チュニジア在住の米国大使、ロバート・ゴデックの 2009 年の外電によると、大統領ベン・アリの「マフィアに似たようなエリート」家族は、あらゆるビジネスに手を出し、特に、ファースト・レディは私立学校からの莫大な利益を得ていた。所変わって、リビアのカダフィ大佐は権力にしがみつくなり、血なまぐさい闘争を開始したが、*Qadhafi Incorporated* と称する外電によると、大佐は 2008 年、自己防衛のため、個人の民兵を備える費用として、リビアの国有石油会社の会長に 12 億ドルを要求した。また、カダフィの子息は、2009 年の新年後、カリブ海のセント・バーツ島で、4 曲歌ったあるアメリカのシンガソング・ライターに、百万ドル支払った例をあげ、カダフィ王族が実に惜しみなく高額な浪費をしているかを示した。

さらに、当時未公開の 1996 年 11 月発行の秘密外電文書をウキリークスから受け取ったロイターは 2 月 28 日、サウジアラビアの王族が如何に贅沢三昧の生活をしているか驚くべき事実を紹介した。*Saudi Royal Wealth: Where do they get all that money?* と称したタイトルの外電には、アル・サウード王族合計数千人に誕生から死ぬまで、毎月給付金が払われるその具体的内容が記載されている。例えば、アブドゥッラー王に最も近い親族である子供には 20 万から 27 万ドル、孫には 27,000 ドル、ひ孫には 13,000 ドル、玄孫には 8,000 ドル、最も遠縁の親族には 800 ドル支払われる。これは、王族の出生を奨励して血族を増やすシステムである。また、王族の結婚や宮殿の費用は、ボーナスとして年間予算 400 億ドル、場合によっては 20 億ドルが組まれている。

外電は、アル・サウード王族のプリンスらがどのような方法で富を築くのか、その方法についても記述している。例えば、当時の米国大使は、サウジのプリンスに会った際、「1 日 100 万バレルの原油の歳入は、全て 5~6 人のプリンスの手に渡る」と記述している。また、石油会社が雇用する外国人労働者を入国させる際、王族がスポンサーになるため、外国人労働者から毎月 30 ドルから 150 ドルの手数料を請求している。これは「予算外プログラム」として、年長の複数のプリンスが管理している。さらに、この王族は、12 の市中銀行から次々に借金したが、「ローンの返済をしない」という。頻繁に論争の原因になるシステムは、予定されてい

るプロジェクトのため、庶民が所有する土地を押収し、素早く売却して換金することである。そのため、1990年代までには、政府が庶民に与える土地は、次第に減少している。以上の全てが王族の富を築く「仕組み」であり、クレプトクラシー的な腐敗政治の典型である。

結論として、現在騒乱が続くアラブ諸国に共通する慢性的な問題は、貧富の格差が激しいこと、貧困ライン以下の人口層が多いこと、若い世代、特に教育水準の高い若者の失業率が高いことなど、総体的に悲惨な経済状態である。いずれの国も政府は過去に何らかの経済改革を実施し、ある程度の国民の生活改善に努めた時期もある。しかし、概して、過剰な石油依存経済、国民を蔑ろにしたグローバル化、および政治的体質に根本的な問題があるため、庶民の生活は向上しない一方で、一部の指導者やエリート階層は不公平な富を得ている。経済格差を含む様々な経済的荒廃とクレプトクラシー的腐敗政治が長期的原因であるとすれば、ウキリークスのような暴露サイトのメディアやインターネットの高度な通信技術が、反政府者らの組織化を促進させた点で短期的要因である。いずれにしても、デモ参加者の姿は、燻っていた煙に火がつく原理に似ており、長い間虐げられたアラブ諸国の国民にとって、自由と平等を求める民主化抗議デモは、不可避の現象だと言える。